

平成7年3月28日

発行責任者

染田屋謙相

第32号

自ら………

38年間教育という枠の中で、生き続けた人間が、その枠をはずされると、ぼう然となる。そんなことではと、己にムチ打って生涯学習に参加する。しかし、よく考えて見ると、それは提供された学習であり、自らの学習というにはほど遠いものである。たとえ学習したとしても、己の身になることは、不可能に近い。今まで以上の努力が必要となるよう思う。

私自身の学習経験を振り返って見ると、とても、自ら学習する体験などありはしない。叱られるから……しかたなく……させられた……で終わっている。

そして、教職経験では、結果的に見て、教授する、教えてやったと思っている。つまり学習の主体者になり自己満足していたにすぎない。時々出逢う教え子たちから、「先生には勉強を習った憶えがない。遊んだことや叱られたことしか残っていない。だから今日この程度の生活しかできないんです。」などといわれ、寒々としたものを感じる。自分では、教えてやったと思っていたのに、ひとり芝居にすぎなかつたのだろうか。

学習指導案通りに授業が展開され、流れにそって子どもたちが活躍している。終わりのチャイムと一緒に、学習のまとめができる。

「大へん 立派な授業でした。」

授業実践の当事者であったときも、参観者の立場だったときも「あれで、本当によかったのか、立派といえるのだろうか」という思いは統いていた。

一体そのクラスの誰人が、自らの学習とし、学ぶよろこびを感じているのだろうか。なるほど、教師の意図通りに授業が展開され、数人の優秀児が流れにそって教師に協力をしている。多くの子どもは、何を考え何をしているのだろうか。教師の「わかりましたね」に対して、「わかりません」という子はいない。

時として、授業が鵜飼いの場になってくる。

元 岡山県久世町立透番小学校長
藤井 和男

熟達した鵜匠によって、綱さばきよろしく鮎をとる鵜、鮎をとらない、とれない鵜はどうなるのだろう。

一時間一時間の授業の中で、わからない、授業の流れにのることのできない子らは、どうなるのだろうか。

くしくも、教職生活を終えるまでの4年間に、オープンスペースを持つ学校に赴任し、個性化教育研究の思潮を知った。それまでは、鵜飼教育者を通していった。多少の疑問点を持ちながら、それをよしとしていた人間である。先進校を視察し、研究会に参加して、どの子らも、学習をよろこんでいる姿に接して、胸のつかえが取り除かれた思いがしたのである。

とは申せ、30数年間のしみついた教授してやる根性は簡単にぬけきれず、毎年加藤幸次先生に遠路をお越しいただき、ご指導を賜った。どうにかよちよち歩きができるようになり、後進に道をゆする都市を向かえたのである。

今、ふり返ってみると、子どもらに、学習を自らのものにするためには、教師自身の意識改革が第一歩であるといえる。いかに教師が、学習者のレベルにまで降りることができるか、いかに教師が黒衣を徹することができるか、ということにある。そして、保護者にも、社会にも啓蒙が必要である。

学校を去る前に、保護者から、「このシステムでの教育効果はいつ目に見えてきますか。」

と、質問されたことがある。口から出まかせみたいに。

「この学校で、子どもらが6か年過ごせば、なんとか姿が…」

と、答えたが、現在はっきりと答えが出るような気がするのである。

今の教育を受けければ、将来、生涯学習をするとき、大いに役立つにちがいないと……。

個性化研究発表会報告

今年度も秋から冬にかけて、全国各地のオープンスクールで個性化教育研究発表会が実施されました。その中から事務局員が参加したいくつかを報告します。少しでも会場の熱気が会員の皆様に伝われば幸いです。

青森県八戸市立萱田小学校

9月27日（木）

台風26号の影響であいにくの天気になってしまったが、参加者の熱気で台風が吹き飛ばされる感じでした。人数の多さ、それも全国各地からで、3時間かけて行った自分などまだまだ近い方でした。

ゆとりある明るい校舎。子どもたちの学習を刺激する数々の工夫がなされている掲示物。公立の学校でもここまで出張るのかと、びっくりするやら、うれしくなるやら。

全校音楽集会の子どもたちは、やらされているという感じが徹底を感じられず、一人一人からつくり出す喜びが感じられ、思わず引き込まれてしまいました。

午後の全体会は、1年間のサバティカルを終えてアメリカから帰国したばかりの上智大学の加藤幸次先生、オープンスクールの建築を数多く手掛けた日本大学の長澤悟先生、全国各地のオープンスクールをまわって来られた若手の神奈川大学の奈須正裕先生の3人のパネルディスカッションが行われました。3人3様の切り口で参加者は、引きつけられました。

（館岡）

青森県八戸市白銀南小学校

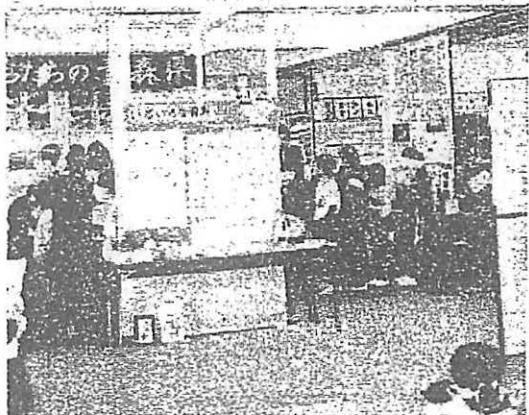
10月7日（金）

八戸市白銀南小学校は、オープンスペースを持った学校として7年前に青森県に誕生し、個別学習に取り組んできました。カーペット敷きのオープンスペースは4クラスの廊下側に2クラス分あり、可動式間仕切りを取り払って活用できる。

平成6年10月7日は、穏やかな秋日和に恵まれた研究発表会日和だった。八戸市教育委員会指導研究委託校として、公開の1校時目は、3年生以上の計算領域のはざみ学習、2校時目

は、総合学習として、1、2年生は生活科を、個別学習として、3、6年生は到達度別に国語科を、4、5年生は発展課題で社会科を、いずれも3TTで公開された。

私が4年生を受け持っていることもあり、「わたしたちの青森県」の学習を大いに参考にさせて頂いた。八戸市だけでなく、津軽、下北地方の調べ学習だったが、子どもたちは調べたい事項について、自分流の表現方法を用いて意欲的に調べていた。実は、昨年度、校内研での授業（生活科、国語）を見せてもらったのだが、さらに充実した、深みのある学習が実践されていて、驚いた。豊富な学習材や学習環境には、圧倒された。特に、心に強く残ったことは、保護者の方がボランティアとして積極的に参加されていたことと、先生方のチームワークの良さとそのエネルギーのすごいことだった。学校だけでなく、地域ぐるみで子どもたちを育てようという姿勢がひしひしと伝わってきた研究発表会だった。（右沢）



4年社会「わたしたちの青森県」の学習

神奈川県中郡大磯町立国府小学校

11月1日（火）

昨年度より、県の教育指導方法開発研究会委員長として、す・平による学習指導の主役の研修を始め、2年目の本発表となりました。

オーランでの「・Tの研究」と言っても加配の教員はいません。学年・学年外の教員によらず・Tのほかに、地域のボランティアとのT・Tが行われているのが特徴です。

この日も1、2年生合同の生活科「園小祭り」では、青空広場に敷かれたレールの上を子どもたちを乗せたミニSLSが行き交いました。この運転をしたのは、自作のミニSLSを提供してくれた地域のボランティアご夫婦でした。

6年生の国語「研究発表会」では、本校を退職された元教員の方にボランティアとして参加され授業が展開されました。(篇圖)

横浜市立日枝小学校

1月8日(火)

平成6年1月8日(火)快晴。折しも横浜市立日枝小学校の校庭では、研究発表会のフィナーレを飾るべく、「お目当て」の金管バンドクラブの華麗な演奏が、多数の参観者の眼前で展開されていた。

運動場を一望できる校舎の2階のベランダから、県下有数といわれるその演奏・ドリル演技を眺めながら、「日枝小学校の教育の特色とは、或は日枝小の実践の魅力とは、一言で言うとなんだろうか」と考えてみた。

今年の日枝小学校の発表会の目玉は「音楽」である。そして昨年の発表会は「給食」がメイン・テーマとして掲げてあった。しかし、それらはあくまでも発表会の「看板」であり、その年度の研究の努力点なのであって、日枝小の教育の「特色」や実践の「魅力」を一言で表したものとは言い得ない。

周知のように、日枝小学校は、昭和59年度より本全個連の事務局長である高浦勝義氏の指導のもとに、「生きて働く力」を持つ子どもの「生活のある学校」、「子どもが主役となる学校」づくりを目指して、活動学習・総合活動の実践研究に取り組んできた。(その成果の一端は、同校著『問題解決力を育む』1993年にまとめられている)

そして、今年の発表会でも1、2年の活動学習・3年生以上の総合活動の発表の場では、

「椅子の子まつり」「音楽劇」「火起こし」など、日枝小オリジナルの問題解決的活動が、皆平見かどき以上に生き生きと展開されていたのだった。

やはり日枝小の教育の特色は、これらの問題解決的活動の実践であると言えそうである。そして、そのような日枝小の実践を魅力的なものとしているのは、主役となっている子ども達の生き生きとした姿であり、そのような学校づくりの実現に努力を惜しまない日枝小の教師集団のエネルギーなんだろうなど、月並みではあるが納得のできる答に落ち着いて、なぜかほっこりして帰路についたのだった。(池田)

盛岡市立仙北小学校

12月2日(金)

第26回岩手県協力指導組織研究大会が催された仙北小学校。過去に全国大会2回、岩手県大会5回開催というまさに「天下に鳴り響いた伝統ある実践校」です。

昭和40年以来、学校経営に協力指導組織を取り入れ、学年協働経営と教科担任制を中心とした学習指導を続けてきました。

平成3年には、全面改築で多目的スペースを持った学校に生まれ変わり、チームティーティングを取り入れ、より子どもの個性に対応した授業の展開で、「学びとする力」の育成を図っています。子どもの個性・能力を多數の教師によって多面的に見いだし、教師の特性・専門性を生かした学年単位の指導を行い、学級間の調和と開かれた学年・学級をめざしているだけあり学年内のチームワークの良さは抜群です。何といっても、学級数プラス1の学年メンバー構成は羨ましいかぎりです。

当日の公開授業では、4年生は国語「体を守る仕組み」をコース選択学習(2C3T)で展開し、また、2年生の算数は、「たし算とひき算ー2」を1C2Tで、マスター・ラーニングの手法をとっていました。豊富な学習材に、どの子も目が輝き、満面の笑みには学びとった喜びがあふれていました。(西村)

埼玉県草加市立八幡小学校

12月6日（火）

埼玉とはいえ川を渡れば東京都。まず、その近さに驚き、さらに研究への真剣な取り組みにまたまた驚きという研究会がありました。

「自ら学ぶ力を育てる学校教育の創造」を主題に、当時は1・3年生のはげみ学習、2・5年生の総合学習、4年生の2クラス3TTでの算数の学習が展開されました。

・はげみ学習では、発達段階に合わせて時間を有効に活用していく工夫がされていました。総合学習では、児童の生活経験をもとに課題設定をしたことから、どの児童も生き生きと学習を取り組んでいました。加配教師が入ったTTで援助にあたる算数の学習では、援助者の役割として、「主から副へ」または「副から主へ」と学習内容に応じた援助の工夫がなされていました。

児童の興味・関心を考慮した学習を設定していくことが、主題である「自ら学ぶ力」と大きなつながりがあることを痛感させられた公開研究会がありました。（安達）

事務局から

12月25日（日）～26日（月）にかけて箱根湯本で宿泊研修会を行いました。男性16名、女性9名の計25名の参加で、夜遅くまで熱心な討議が展開されました。高浦先生がご病気で参加されなかつたのがとても残念だという声もありましたが、（今は、すっかりお元気になられました。）有意義な研修会でした。

今、事務局中心にプロジェクトを組んで研究をしています。

- ① 個性化
- ② T・T
- ③ 学習材
- ④ 環境
- ⑤ 追跡

研修会でもこの5つに分かれてじっくり話し合いを深めることができました。いずれ、これ

〈事務局への問い合わせ・連絡先〉
〒114 東京都北区赤羽南1-16-2-504
03-3903-4780 事務部長 佐久間茂和

らの成果を会員のみなさまに発表させて頂くことになると思います。どうぞご期待ください。

会誌9号のお知らせ

会誌9号は、プロジェクトでの内容、確認事項の特集号です。5月中に会員のみなさまに配布すべく、三浦鋤築部長を中心に編集の真っ最中です。

巻頭言は、前卯ノ里小学校校長の安藤翠先生です。論文は、「個性の捉え方」をテーマに浅沼茂先生、鈴木正幸先生、成田幸夫先生、井田勝興先生、石坂和夫先生、中沢米子先生、加藤幸次先生、高浦勝義先生などです。特集はプロジェクトの個性を予定しています。ご期待ください。

会誌「個性を育てる」バックナンバーのご紹介

- ・1号テーマ「こんな授業を創ってみました」
巻頭言 染田谷謙相「個性の伸長」
- ・2号テーマ「こんな授業を創ってみました」
巻頭言 高木省三「活性化を図ろう」
- ・3号テーマ「こんな授業を創ってみました」
巻頭言 三原英雄「個別化・個性化教育の推進に寄せて」
- ・4号テーマ「こんな生活科を創ってみました」
巻頭言 染田谷謙相「個性を生かす教育」
- ・5号テーマ「こんなコンピュータの活用を、創ってみました」
巻頭言 前崎敏雄「期待される個性尊重の教育」
- ・6号 個性化教育ガイドブック
- ・7号テーマ「こんな総合学習を創ってみました」
巻頭言 永地正直「日本型オープン創造」
- ・8号テーマ「こんなTTを創ってみました」
巻頭言 染田谷謙相「TTの第2の波」
幾らか在庫もございますので、事務局までご連絡ください。

全国個性化教育研究連盟会報 第32号
平成7年3月28日発行
編集責任者 事務局長 高浦勝義
編集 広報部 箱岡茂樹